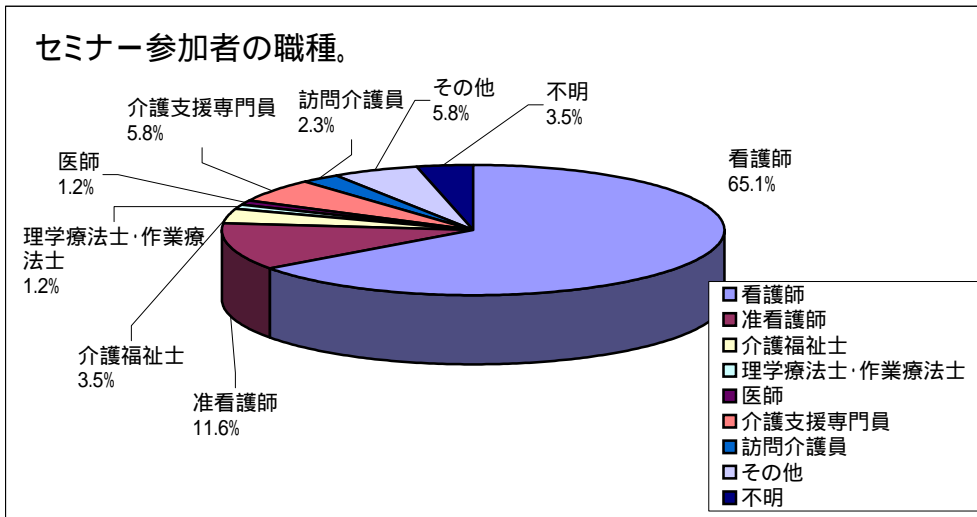


多摩PDNセミナー (平成17年11月)

アンケート集計結果

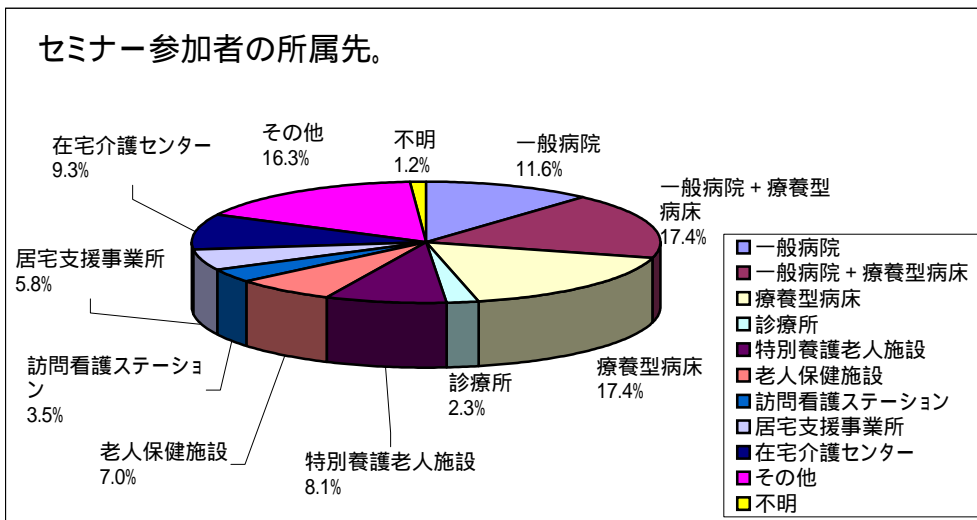
セミナーには、どのような方が参加したのか？

職種。



N=86

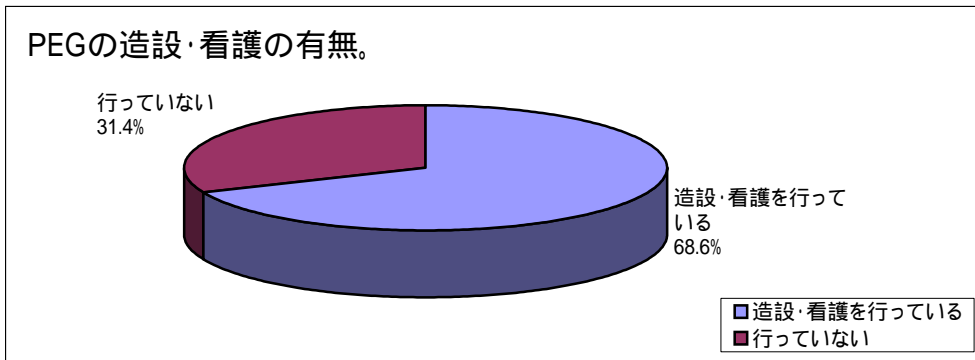
所属先。



N=86

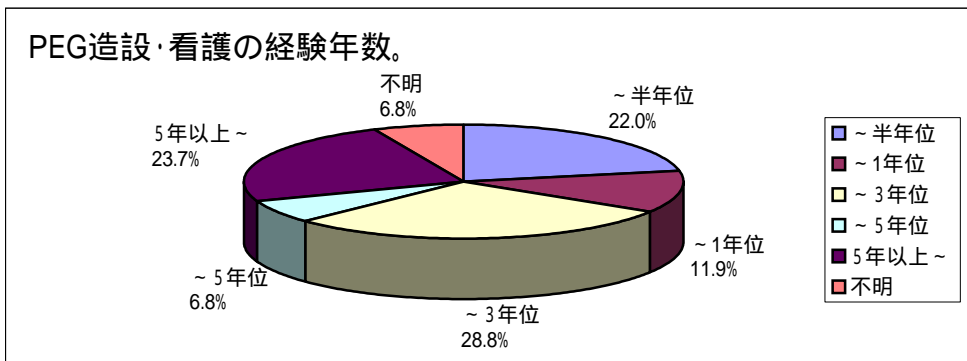
・セミナー参加者のPEGとの関わり。

PEGの造設・看護の有無。



N=86

PEGの造設・看護の経験年数。(造設・看護を行っている人について)



N=59

所属先の胃ろうを入れられた患者さんの有無と人数。

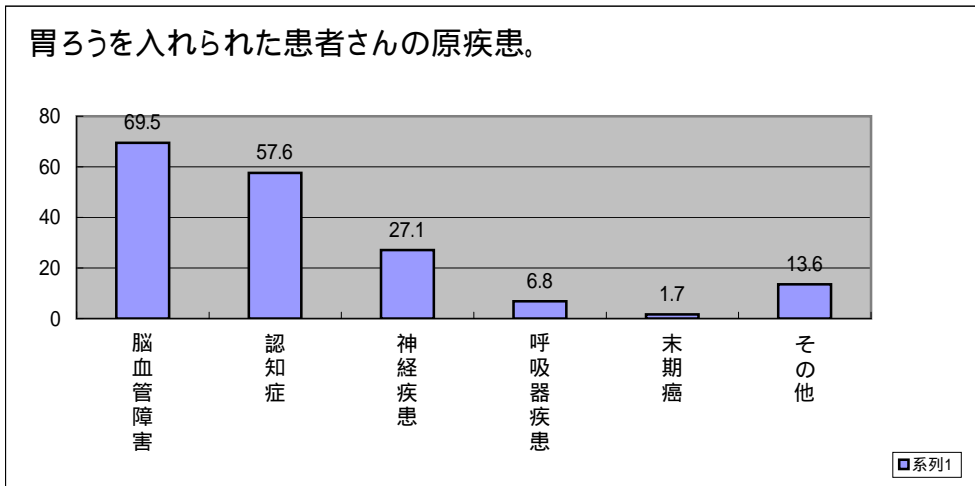
(造設・看護を行っている人について)

N 100% =	胃ろうを入れられた患者さんがいる					
	計	～5人	～10人	～20人	21人以上～	不明
59	53 89.8	29 49.2	5 8.5	5 8.5	8 13.6	6 10.2

(つづき)

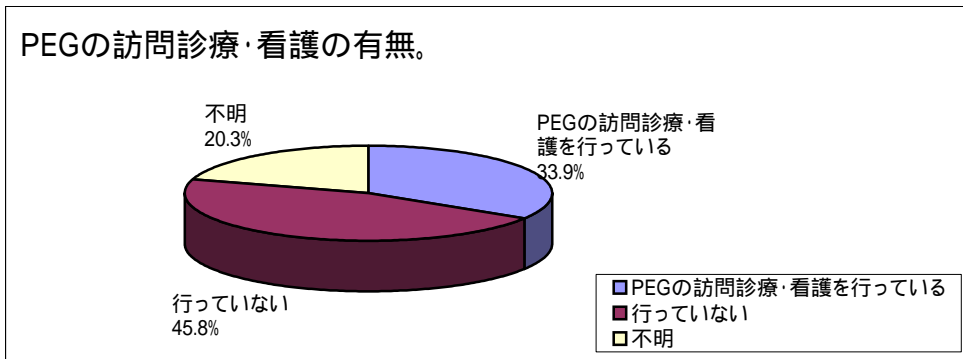
N 100% =	患者さんはいない	不明
59	2 3.4	4 6.8

胃ろうを入れられた患者さんの原疾患。(造設・看護を行っている人について)



単位: % N=59

所属先のPEGの訪問診療・看護の有無。(造設・看護を行っている人について)



N=59

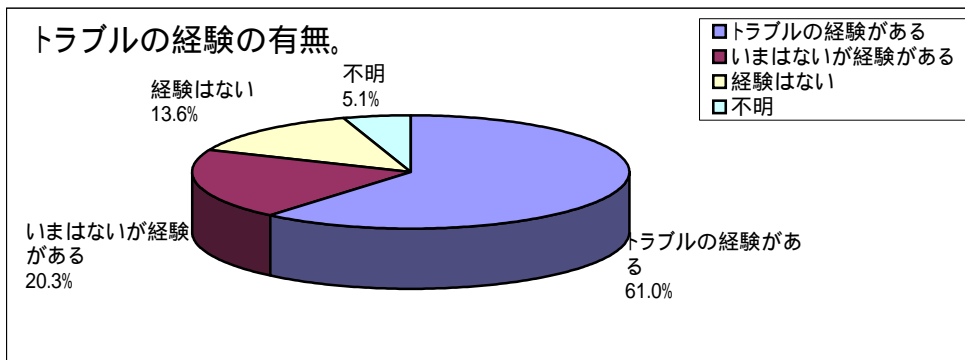
訪問診療・看護の有無とその人数。(造設・看護を行っている人について)

N 100% =	訪問診療・看護を行っている				
	計	~5人	~10人	11人~	不明
59	20 33.9	8 13.6	0 0.0	1 1.7	11 18.6

(つづき)

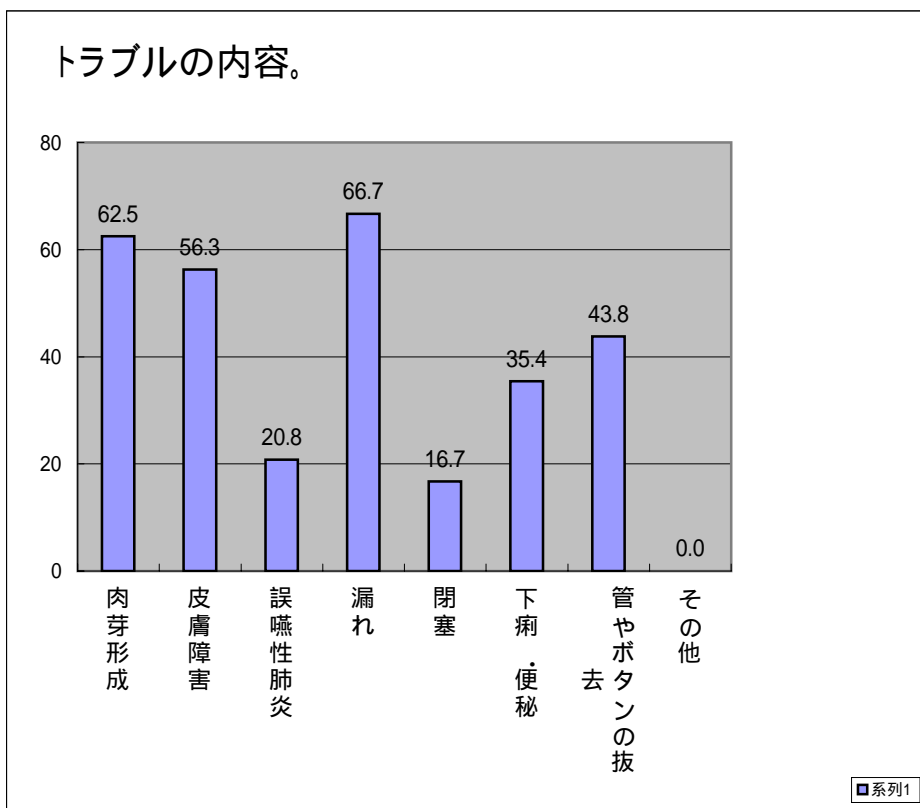
N 100% =	行っていない	不明
59	27 45.8	12 20.3

看護の中でのトラブルの有無。(造設・看護を行っている人について)



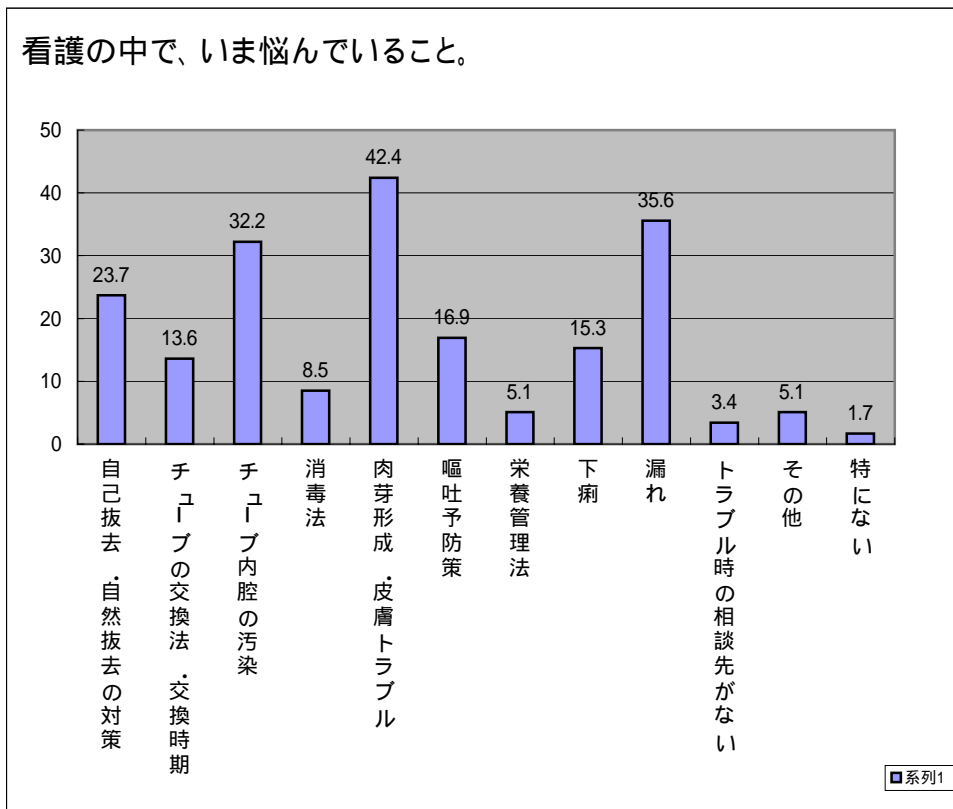
N=59

トラブルの内容。(造設・看護を行っている人で、トラブルの経験がある人について)



単位: % N=48

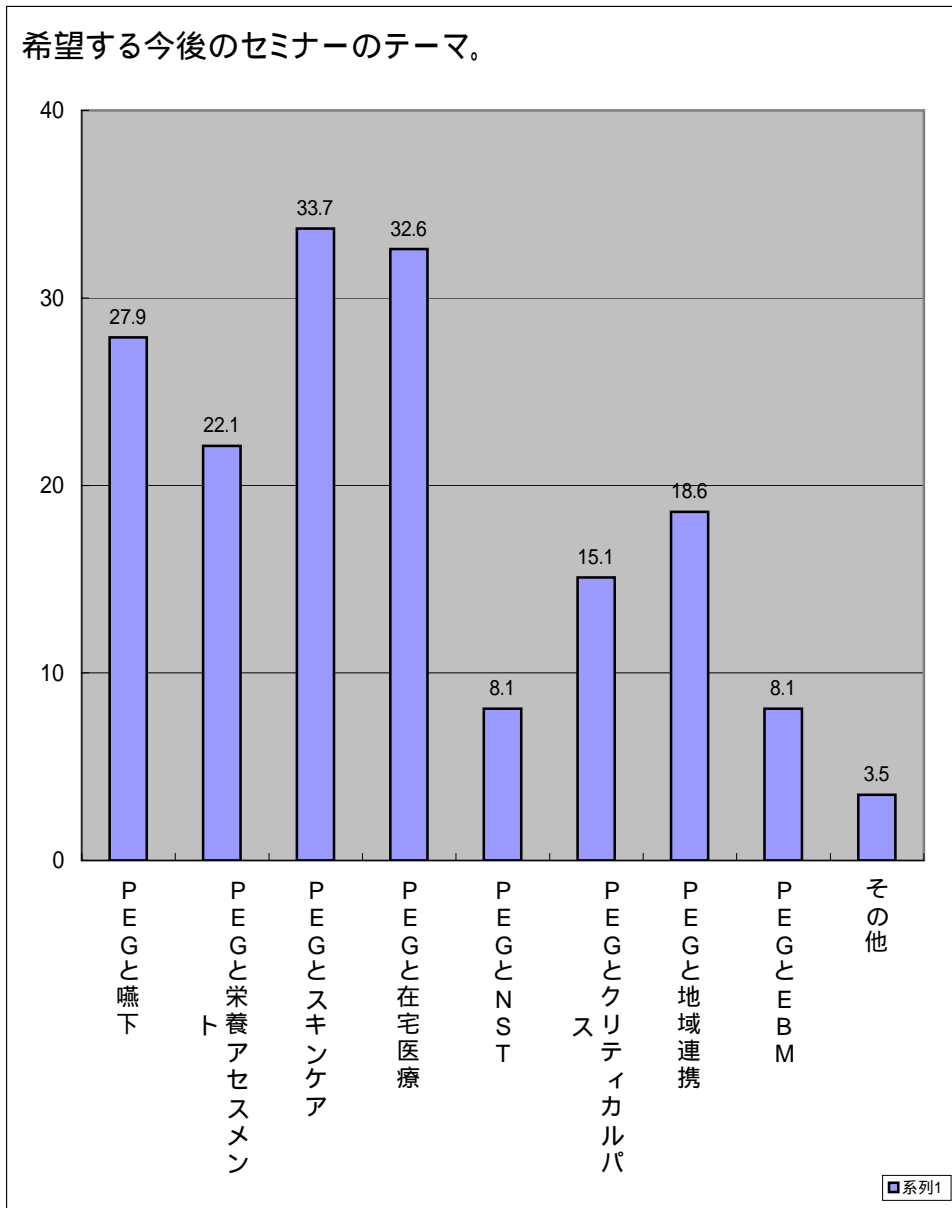
看護の中で、いま悩んでいること。(施設・看護を行っている人について)



単位: % N=59

. セミナーのテーマに対する希望。

希望する今後のセミナーのテーマ。



単位：% N=86

・自由回答意見。

問 . PEGの正しい理解のためにはどのようなことが解決されなければならないとお考えですか？どのようなことでも結構です。忌憚のないご意見をおきかせください。

- ・トラブル時の対処方法を確立すべきだ。(看護師、老人保健施設)
- ・在宅ケアでのトラブルに対して早急に対策を考えるべきだ。(介護支援専門員、居宅支援事業所)
- ・施設や在宅でケアすることが多いので、介護職もきょうのようなセミナーで勉強する機会があるとよい。(介護支援専門員、居宅支援事業所)
- ・施設職員には胃ろう患者への対応はリスクが高いと考えているものが多い。ケアのポイントを学ぶ機会が多くあれば、在宅サービスの機会が増え、在宅生活が可能になる。(介護支援専門員、居宅支援事業所)
- ・ヘルパーにも取り扱えるになり、胃ろうの患者さんを受け入れやすくなるような在宅ケアの環境が整えられるとよい。(介護支援専門員、居宅支援事業所)
- ・「胃ろう＝末期」というマイナスイメージがまだ強い。一般の人々に対して食事を摂る手段のひとつであることを理解させる必要がある。(社会福祉士、在宅介護支援センター)
- ・PEGの患者さんが増えている。施設の人たちにも理解できるようになればよいと思う。(看護師、一般病院)
- ・医師、看護師など、ケアに携わっている人たちへの指導が大切だ。(看護師、診療所)

『多摩PDNセミナー』アンケート

回収サンプル数:86サンプル

Q1. あなたは、現在、胃ろうの造設・看護を行っていますか？

1. 行っている(68.6%) 2. 行っていない(31.4%)

Q9へ

(N=59)

Q2. 胃ろうの造設・看護を行うようになってから何年になりますか？

1. ~半年位(22.0%) 2. ~1年位(11.9%) 3. ~3年位(28.8%)
4. ~5年位(6.8%) 5. 5年以上~(23.7%) 不明(6.8%) 平均:3.107年

Q3. 現在、胃ろうの患者様は貴施設に何人いらっしゃいますか？

1. いる(89.8%)()名 2. いない(3.4%) 不明(6.8%)

Q4. 胃ろうを造られた患者様の原疾患は何ですか？

1. 脳血管障害(69.5%) 2. 認知症(57.6%) 3. 神経疾患(27.1%) 4. 炎症性腸疾患(0.0%)
5. 呼吸器疾患(6.8%) 6. 頭頸部癌(0.0%) 7. 末期癌(1.7%)
8. 小児疾患(0.0%) 9. その他(13.6%)

Q5. 貴施設ではPEGの訪問診療・看護を行っていますか？

1. 行っている(33.9%)()名 2. 行っていない(45.8%) 不明(20.3%)

Q6. 看護の中で、トラブルにあったことがありますか？

1. ある(61.0%) 2. いまはないが経験がある(20.3%) 3. ない(13.6%)
不明(5.1%)

Q7. どんなトラブルでしたか？(いくつでも)

1. 肉芽形成(62.5%) 2. 皮膚障害(56.3%) 3. 誤嚥性肺炎(20.8%)
4. 漏れ(66.7%) 5. 閉塞(16.7%) 6. 下痢・便秘(35.4%)
7. 管やボタンの抜去(43.8%) 8. その他(0.0%)

Q8. 看護の中で、いま悩んでいるものはどれですか？(いくつでも)

1. 自己抜去・自然抜去の対策(23.7%) 2. チューブの交換法・交換時期(13.6%)
3. チューブ内腔の汚染(32.2%) 4. 消毒法(8.5%) 5. 肉芽形成・皮膚トラブル(42.4%)
6. 嘔吐予防策(16.9%) 7. 栄養管理法(5.1%) 8. 下痢(15.3%)
9. 漏れ(35.6%) 10. トラブル時の相談先がない(3.4%) 11. その他(5.1%)
12. 特にない(1.7%)

Q9. 今後のセミナーのテーマでは何を希望しますか？(いくつでも)

1. PEGと嚥下(27.9%) 2. PEGと栄養アセスメント(22.1%) 3. PEGとスキンケア(33.7%)
4. PEGと在宅医療(32.6%) 5. PEGとNST(栄養管理チーム)(8.1%) 6. PEGとクリティカルパス(15.1%)
7. PEGと地域連携(18.6%) 8. PEGとEBM(根拠にもとづいた医療)(8.1%)
9. その他(3.5%)

Q10. あなたは次のどれにあたりますか？

1. 看護師(65.1%) 2. 准看護師(11.6%) 3. 訪問看護師(0.0%) 4. 介護福祉士(3.5%) 5. 薬剤師(0.0%)
6. 栄養士(0.0%) 7. 言語聴覚士(0.0%) 8. 理学療法士・作業療法士(1.2%) 9. 臨床心理士(0.0%)
10. 医師(1.2%) 11. 介護支援専門員(5.8%) 12. 訪問介護員(2.3%) 13. その他(5.8%)
不明(3.5%)

Q11. あなたの所属先は？

1. 一般病院(11.6%) 2. 一般病院+療養型病床(17.4%) 3. 診療所(2.3%) 4. 療養型病床(17.4%)
5. 特別養護老人施設(8.1%) 6. 老人保健施設(7.0%) 7. リハビリテーション専門病院(0.0%)
8. 訪問看護ステーション(3.5%) 9. 居宅支援事業所(5.8%) 10. 在宅介護支援センター(9.3%)
11. その他(16.3%) 不明(1.2%)

Q12. PEGの正しい理解のためにはどのようなことが解決されなければならないとお考えですか？

どのようなことでも結構です。忌憚のないご意見をおきかせください。